

【授業科目】病態解析診断学 I Laboratory Medicine I

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
山口 央輝	3年次後期	必修	2	30	講義	なし	巻末掲載	可
授業概要 (内容と進め方) 及び課題に対する フィードバック方法	<p>授業概要／臨床解析診断学 I および II では各論ごとに知識を履修するため、これらの知識を横断的に結びつけるために、臨床検査データを含めた症例を提示し、その症例における病態を推察することを実践する。各種検査データから患者の病態を把握、評価することにより、適切な検査データを提供することにより医療チームの一員として臨床に対して支援する能力を養うことを目的とする。実際には、検査所見の異常から病態および疾患を推定できること、検査所見の異常値について意味すること、さらに疾患の診断、治療に向けて必要な検査の種類を挙げることができるが必要となる。</p> <p>課題に対するフィードバック方法／提出された課題・レポートにはコメントする事でフィードバックを行う。</p>							
授業の位置づけ	<p>本学のディプロマ・ポリシー④「臨床検査の専門性と責務を自覚するとともに、地域に住むあらゆる健康レベルの人々に専門的知識と技術に基づき臨床検査を実践できる。」の達成に寄与している</p>							
到達目標 (履修者が到達すべき目標)	<p>①検査所見の異常から病態および疾患を推定できる。 ②検査所見の異常値について意味すること、対応すべきことが理解できる。 ③さらに疾患の診断、治療に向けて必要な検査の種類を挙げることができる。</p>							
時間外学習に必要な学修内容および学習上の助言	<p>本演習は、臨床病態学 I および II で履修した内容を応用し理解を深めるものであり、症例から病態を把握するためには、これらの履修内容を十分理解していなければならない。 これまで授業で与えられた教科書、プリントだけではなく、図書館蔵書などを利用して十分な調査をすることが必要である。(60分)</p> <p>※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間(2単位15回科目の場合：予習+復習4時間/1回)(1単位15回科目の場合：予習+復習1時間/1回)(1単位8回科目の場合：予習+復習4時間/1回)を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。</p>							
授業計画	<p>第 01 回 病態解析診断学の概要 第 02 回 症例検討 栄養状態の異常 第 03 回 症例検討 全身状態経過の異常 第 04 回 症例検討 細菌感染症 第 05 回 症例検討 重症細菌感染症 第 06 回 症例検討 敗血症 第 07 回 症例検討 腎臓疾患 第 08 回 症例検討 肝臓疾患 第 09 回 症例検討 胆管・胆道疾患 第 10 回 症例検討 細胞障害 第 11 回 症例検討 貧血 第 12 回 症例検討 凝固・線溶異常 第 13 回 症例検討 電解質異常 第 14 回 症例検討 動脈血ガス異常 第 15 回 まとめ</p>							全て 山口
評価方法 評価基準	<p>試験(90%)、受講態度(10%)で総合的に評価する。</p>							
教科書	適宜配付します。			参考書等	病気がみえる シリーズ (メディックメディア)			
学生へのメッセージ	<p>本演習に向けての十分な調査、学習をすることで、臨床検査とへの関心、興味もいっそう増大するはずである。</p>							